



青少年赤十字通信

2012. 1. 6

第19号

日本赤十字社新潟県支部
新潟県青少年赤十字指導者協議会

1. 新潟アルビレックスBCが加盟校を訪問

日赤県支部では、新潟アルビレックス・ベースボール・クラブとパートナーシップを締結し、地域支援活動をおこなっています。このたび、同クラブのコーチおよび選手が佐渡市立二宮小学校を訪問して、一緒に給食を食べたり、お昼休みにキャッチボールやドッジボールをして児童たちと交流を深めました。

また、講演会では夢をかなえるためにどのような努力をしたのかを1人ずつ話してくださいました。ご協力いただいた二宮小学校と関係者のみなさま、ありがとうございました。



2. 新潟市地区トレーニング・センターが開催されました

青少年赤十字新潟市地区指導者協議会主催

期日：平成23年12月3日(土) 会場：東北電力ビッグスワンスタジアム

県支部派遣 STAFF：

日赤新潟県支部 事務局長 白倉 哲男 事務局次長 中澤 清
組織振興課係長 小原 大介 同 嘱託 伏見 敦子
ボランティア 日本赤十字社救急法指導員、長岡赤十字看護専門学校生徒



アルビレックス新潟の最終戦に合わせて土曜日の開催となりましたが、児童・生徒約 30 名が参加して下さいました。

フィールドワークでは、貴賓室や記者席の設営のボランティアを体験したり、ハーフタイムには横断幕を掲げて赤十字の広報を行いました。いつもは観客として見ているサッカーの公式戦ですが、今回のトレセンではスタッフと一緒に試合を作り上げる立場で参加できて、子どもたちもいい経験だったと思います。

3. JRC シンボルツリー（いとすぎ）を希望校へ贈呈



このたび加盟校に青少年赤十字のシンボルツリーのいとすぎを贈呈いたしました。これは青少年赤十字活動を応援してくださっている新潟県日赤有功会より提供していただいたものです。

上越市立国府小学校にていとすぎの贈呈式を行いました。雪のちらつく寒い朝でしたが、児童のみなさんはとても元気に明るく挨拶をしてくれました。

いとすぎのように心も体もまっすぐ、すくすくと成長することを願っています！

4. 東日本大震災復興支援に絵本を作っています

日赤県支部では東日本大震災の被災地支援のため、絵本を作成しています。

収益金の一部を義援金とさせていただくとともに、震災を風化させないために、親から子へと未来へ引き継げるような絵本を作っていきたいと思っています。

昨年 12 月、絵本作成の取材で宮城県南三陸町の保育所を訪問しました。

その保育所も津波の被害にあいましたが、裏山を駆け登り園児を避難させ、無事に保護者の元に帰すことができたとのことでした。

また、昨年 8 月に行われた上越地区トレーニング・センターで子どもたちが作成してくれたメッセージラッグ等、県内の加盟校から寄せられた応援グッズを保育所に贈呈いたしました。



〈仮設の商店街にあった復興を願うクリスマスツリー〉



5. 被災地の現状や子どもたちの様子について出前授業をしています



東日本大震災の被災地で活動した職員による体験談をお話させていただいています。

「自分の命を大切にしたい」「たくさんの幸せの中に暮らしていると思った」など、自分たちが当たり前で過ごしていることについて考える内容の感想文をたくさんいただきました。

被災された方のために私たちは何ができるのかな。
みんな真剣に話を聞いています

今日は、日本赤十字社のほうから入原大介さんとフニヨさんに来て頂きました。私も被災者の一人ですが、今回の東日本大震災についていろいろ聞くとかみ出来ました。被災地に行くために地味には危険な道路や場所を命がけでかけつけて下さった車、食事を運んではおられもなく活動して下さった事を学びました。そのおかげでとれなかった人々の命が助かったのかと思うと素晴らしい仕事だと思いました。私は福島にいたころ被災者を助けるために活動している車両と毎日お会いしました。車のナンバーを見ると、全国からかけつけて下さっていることがわかりました。最後に聞いた「自分の命やF1を大切にしよう」というお話身にしみて大切がわかりました。震災直後は、ガソリンも食糧も不足しがらで買いに行きました。電気がかなたりに水を親せきの家に行ったりしたのが赤十字社の人たちの苦労がものすごくわかり、ありがたいと思います。私は福島にいたころF1の所々まで自分の手伝いに何かが参加しました。だから助けて下さっているほうから余裕があつてヒマだからいいわけではないということもよくわかりました。今も新潟でたくさんの人たちに支えられながら暮らしています。赤十字社の人たちそして、新潟の人たち、この学校のおみな心から感謝しています。私もいつか世の中に役に立つ仕事につくF1の旗を掲げたいと思います。

- ※学校行事（キャリア教育や避難訓練、総合学習など）に合わせて出前授業を行います。
- ※職員派遣に伴う交通費や謝礼など、学校で負担いただくものは一切ございませんので、日程や内容について、お気軽にご相談ください。

<訪問や受入をさせていただいた学校>

- | | |
|-------------|-------------|
| 新潟市立新通小学校 | 新潟市立関屋小学校 |
| 三条市立四日町小学校 | 上越市立板倉中学校 |
| 新潟市立小針中学校 | 新潟市立黒崎中学校 |
| 新潟市立岡方第二小学校 | 新潟市立白根第一中学校 |
| 加茂市立葵中学校 | 新潟市立大淵小学校 |
| 南魚沼市立五十沢小学校 | 上越市立稲田小学校 |
| 新発田市立本丸小学校 | |

6. 合言葉は「子どもたちに笑顔を!」～海外の赤十字から寄せられた救援金で子どもたちを支援～



東日本大震災では、学校を始めとする教育機関も大きな被害を受け、授業再開にも時間を要する結果となりました。特に、校舎が地域住民の避難所となった学校では、子どもたちの学習や活動が制限されました。また、被災した児童・生徒を受け入れている学校でも、学校生活に必要な備品が不足するなど、様々な課題を抱えていました。

こうした状況を受けて、日本赤十字社では、教育の拠点である学校を中心に、子どもたちが一日も早く、もとの生活を取り戻すことが出来るよう、健康と教育の両面からの支援を行っています。

〔主な活動内容〕

◆保健室への備品の整備

被災地した学校の保健室に、身長計、体重計、視力計、ベッドなどの備品を届けています。届いた学校では、早速に生徒たちの身体測定が行われるなど、子どもたちの健康と安全を守るために活用されています。

◆仮設体育館の整備

沿岸部の学校では、津波で流出するなどして校舎が使えなくなり、仮設校舎に移転した学校があります。日本赤十字社では、公的な資金で賄われなかった仮設体育館の整備を支援しています。完成した仮設体育館は、体育の授業や学校行事に活用されています。

◆スクールバスの運行支援

学校から遠く離れた仮設住宅で生活している子どもたちは、安全面での懸念がある遠距離通学や、転校を余儀なくされる事態が生じていました。そこで、子どもたちの通学の足を確保するために、スクールバスの運行を支援しています。

◆学校給食センターの資機材整備

学校の給食室や、市町村の給食センターに食器、保管庫、冷蔵庫などの備品を整備しています。その結果、子どもたちに、温かく多様なメニューが届けられるようになりました。

◆パソコンの整備

校舎の外での活動が制限されている地域の学校に対し、パソコンの支援を行っています。室内で活動せざるを得ない生徒たちは、パソコンを使うことで、授業の幅が広がりました。

◆健康・安全に関する講習

子どもたちの健康を守るためには、子ども自身や保護者が、正しい知識や技術を身につけることが大切です。そこで、赤十字が持つ救急法講習などのノウハウを活用した、特別講習会を被災地で開催しています。

詳細はコチラ→ [日赤キッズクロスプロジェクト http://www.jrc.or.jp/12/13/14/Vcms4_00002371.html](http://www.jrc.or.jp/12/13/14/Vcms4_00002371.html)



各地区の協議会でご担当いただきました教職員のみなさま、運営 STAFF のみなさま、大変お疲れ様でした!!



何でもお気軽にお問い合わせください!!

<担当> 日本赤十字社新潟県支部

組織振興課 小原(おばら) & 伏見(ふしみ)

TEL 025-231-3121

FAX 025-231-3122

メール jrc@niigata.jrc.or.jp

ホームページ <http://www.niigata.jrc.or.jp>